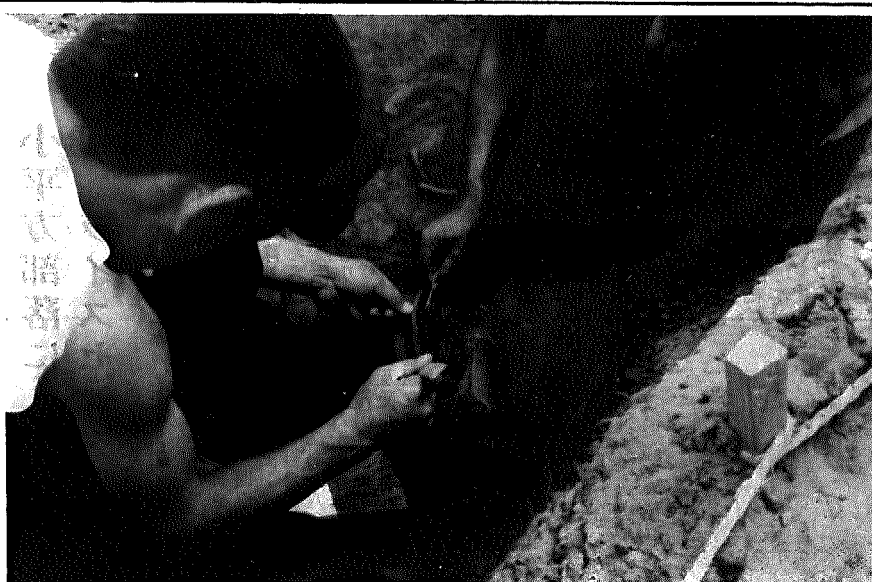


広報 UNOYAMA

第 5 号

発行所 黒塚村役場
 発行人 清水善夫
 印刷所 小野塚印刷所



でたぞ、これは果して何か？

貴重な土器などが たくさん発掘さる

— 的 場 遺 跡 —

〈村の動き〉

7月末現在	
人口	16,968人
男	8,306人
女	8,662人
世帯数	3,686
7月1日から7月末までに	
死亡	8人
出生	36人
婚姻	16組

ようやくつかめたか？

的 場 遺 跡

新聞、テレビ等で、ご存じかと思いますが、このたび県教委や本村あるいは他市町村の考古学研究者により、八月十四日より一週間にわたり、本村北場部落にある、的場(まとは)遺跡の発掘調査を行なったところ、貴重な土器類などがたくさん発掘された。

に続いて、今度、的場遺跡の発掘調査を行なったわけである。今回の調査により、弥生式土器や、須恵器、土師器(はじき)などや、住居の跡と思われる柱の穴などが発見され、確実に人類が棲息していたことは判明できる。

同遺跡は、以前にも弥生末期のものともみられる、土器や、さらに中世の陶磁器や武器などが発見されていた。それではここで、なぜ遺跡などを発掘しなければならぬのか、何の為になるのかと、疑問に思う方もあるのではないかと思うので、ごく簡単に説明しますとこれらの遺跡は日本中各所に発見されており、日本人が何千年何万年位前から、この国土に棲息したか、また、その後どのように生活をして現存していたか等々が少なからずも発掘された土器類や住居の跡などから推測できるのではないかと思われる。

また、今回の発掘調査には、夏休みを利用して、少しでも歴史の勉強にと、新潟女子短大の生徒や各校の高校生、そこに地元の中学生なども加え、ぎらぎらと照りつける炎天下で一生涯命発掘にあたっていた。発掘二日目に装身具と思われる「ヒスイ」のくだ玉が発見、以後も毎日のように、土器の破片や、現物そのままの物から、予想されていた通り、縄文時代から歴史時代にかけて、多種多様の土器類が発掘され、人類学や、考古学の研究に、貴重な一ページを飾りました。

これらを解明する上にも昭和三十四年の緒立遺跡の発掘調査

注 発掘された土器類は一つ一つ詳細に調査中ですので、済みしだい、また、報告したいと思えます。